



一条植えタマネギ栽培技術を開発

— キャベツ・タマネギ兼用移植機の利用 —

開発の背景・ニーズ

東三河地域では11月から翌年6月にかけてキャベツを出荷しています。初夏どりキャベツ（6月収穫）は病害虫の発生が多く、単価も安いことから、キャベツの代替品目としてタマネギに注目する生産者が増えています。このため、新たにキャベツとタマネギのどちらも定植できる移植機が開発されました。

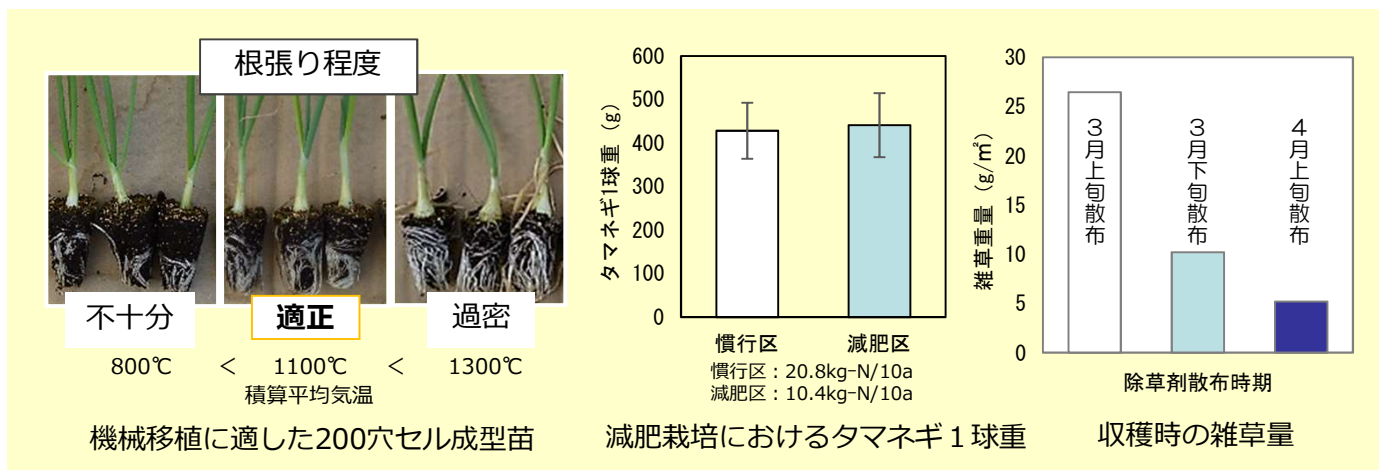
これを受けて本研究では新たに開発された移植機を利用した、一条植えタマネギ栽培のための技術（育苗、施肥、除草）の開発に取り組みました。



タマネギの株間（10cm）に対応した一条植え移植機 PVZ100（マセキ）

成果の内容

- 育苗：機械移植に適した200穴セルトレイでの育苗期間を検討したところ、積算平均気温1100℃に達する日数が適正な根張り形成の目安であることがわかりました。
- 施肥：一条植え栽培におけるタマネギの窒素吸収量から、基肥として5.6kg-N（窒素）/10a、追肥を2月中旬に4.8kg-N/10a施用することが目安であるとわかりました。これにより、慣行施肥量(20.8kg-N)の半分(10.4kg-N)に減肥できます。
- 除草：定植後及び中耕後に効果の高い除草剤を選定しました。また中耕後の除草剤散布を3月下旬～4月上旬に行うことで、より効果的な抑草が可能になりました。



愛知県農業への貢献

本技術をキャベツ専作農家が活用することで、少ない投資でタマネギ栽培が可能になり、キャベツ・タマネギ生産の安定につながることを期待されます。本研究の成果は「一条植えタマネギ栽培マニュアル」としてまとめ、関係者に配布しました。